

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おへさと

第 47 号

(題字は支部長)

令和元年8月(日)

発行者

新井 俊一

あいさつ

「OK」を合言葉」

支部長 新井 俊一



令和元年
度総会が、新
会員17名を
お迎えし終
了すること
ができました

た。会員数は348名です。さいたま市支部に次いで5番目の会員数です。この度、若林支部長の後任として大役を引き受けることになりました。浅学非才ではございますが、最善を尽くしてまいります。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

さて、私は先日の総会中「新役員代表あいさつ」で、『OK』を掲げてその決意をお話ししました。

初めの「O」は大里を指します。

本支部は熊谷、深谷、寄居の三班で組織されておりますが、現職時多く

の会員が複数班で勤務した経験を
持っております。

このことから「大里は一つなり」を
提唱し、本支部の充実に心を一つに
して参集していただきたいと思っ
ております。

次の「K」は「K・か行で始まる言
葉」のことです。

本支部も歴史を重ねることに充実
発展してまいりましたが、その事業
や運営上で「改善」「改良」を加えるこ
とはないか、しつかり検証しながら
仕事を進めてまいります。そのため
には会員の方々の提言を大切にしま
いと思っております。皆様の声をぜ
ひお聞かせ下さい。

次に本支部の新たな課題として浮
上してまいりましたのは、令和2年
度埼玉県退職校長会定期総会を大里
支部が運営することです。

県内には10支部がありますが、そ
のローテーションに従って各支部が
運営することになっていきます。

本年は六月七日(金)、人間支部の担
当によりウエスタ川越で開催されま
した。本支部総会代議員の方々は

里支部での担当を視野に入れて、総
会に出席しております。

第1回実施委員会を6月15日(土)に
開催しました。大里の底力を県下に
示そうではありませんか。

春風や闘志いできて丘に立つ

虚子

大里支部総会概要

「若葉青葉の風薫るこの季節にこ
こ寄居のカタクリの里で総会が開催
されますことを誇りに思います。会
員の皆様には、この景観を満喫して
いただければ幸いです。」と若林直
樹支部長のあいさつにあったように、
窓辺に広がる山並みは別荘地よう
なこの地で、誠に爽快な総会となり
ました。

新井民男副支部長の開会の言葉、
7名の物故者会員への黙祷、若林支
部長あいさつと進み、来賓3名から
祝辞をいただきました。寄居町教育
長轟様は「虐待等悲惨な事件が起
こっているが、チーム学校での対応
が大事」。北部教育事務所長片桐様
は「学校教育の大きな課題は教職員
の不祥事、働き方改革への対応」。
埼玉県退職校長会副会長浅見様は、
ユーモアを交え「退職校長会は校長

として生きてきた誇りを確かめあう
場、誇りを持ち続けて欲しい。」と
の趣旨の祝辞でした。皆様共通して
「退職校長の持つている力を学校現
場に貸して欲しい。」との結びでし
た。

その後、7名の高齢者叙勲受章者
への記念品贈呈、新会員紹介及び鴻
野年伸新会員代表あいさつと続きま
した。

議事に入り、平成30年度事業報告、
決算報告、監査報告、新役員報告、
令和元年度事業計画、予算案がいず
れも原案通り承認されました。

新役員を代表し、新井俊一新支部
長から「来年度の県総会開催に向け
て大里支部が心を一つにし、持てる
力を発揮しましょう。」とあいさつ
がありました。

その他として最後に大岡由男常任
理事から来年度の県総会の開催に向
けて期日、会場、役割分担等、大里
支部として取り組
んでいくための基
本方針が示され、
理解と協力が要請
されました。

全て、スムーズ
な進行で、和やか
な雰囲気の中で
した。
文責 内田眞弘



随

想



変化を楽しみ

ながら充電中

熊谷東 福島 智

「うーん 絵心があるな」今でも鮮明に記憶に残る一言。熊谷東中時代に、美術の大久保照雄先生が、中一の私に声掛けしてくれた。校舎から見える田園風景を描いていたが、半ばやけつぱちになつていた。先生が、飽きていた私に励まして言ってくれたのか、意図的な働きかけか本心か？定かではない。それまで絵を描くことに自信が持てていなかった私には、完璧にゾーンに入る先生とのふれあいの瞬間だった。以来、美術の時間が楽しくなり夢中になつて絵を描いた。しかし、このことが、私の一生を支える趣味となるとは考えてもいなかった。まして人を変化させる魅力の職業＝教員になるきっかけになるとは思つてもいなかった。

校長時代にこの話を先生方にす

ると、いい出会いがあつたとか、大久保先生は、その気にさせる天才だとか、感想が返つてきた。私自身、「貴重な出会いや変化を楽しむベース」が、中学校のころから養われ始めたと思えていた。

退職後三年目だが、相変わらず変化することを楽しんでいる。県立総合教育センター面接相談員という今の仕事も、今までにない変化をもたらしている。

変化はストレスにもなるが、その軽減法を学ぶこともできた。当センターで多くの講師の先生が説く内容は、自分なりの睡眠量、適度な食事量や運動量の確保を基礎基本として、音楽の力の活用や気心知れた友人とのコミュニケーションを勧める。素直に実践すると、エネルギー充電が出来ていた。

変化することを楽しみながら、諸先輩の生き方に学び、大久保先生のように「変化させることを楽しむ」も今後の人生の糧としていきたいと感じている。

古希の挑戦

熊谷中央 村田 勻

三十代にお世話になつた大家さんは、寡黙だが仕事熱心で行動的な人だった。ゲートボールが好きで、自宅の庭でもよく練習をしていた。彼が七十歳になつた頃、「書道をする事になった。」という話を聞いた。

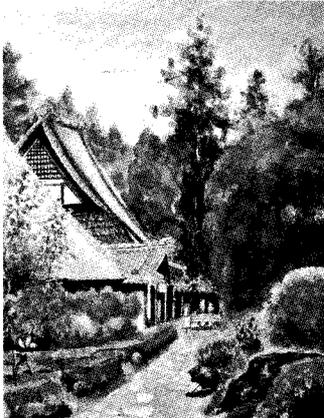
離れの座敷で座卓に向かい練習する姿がよく見掛けられるようになった。床の間の傍らには、練習用半紙が三箱くらい重ねられていた。「身長ほどの厚さの半紙に練習すれば上手くなる。」という先生の話を笑っていたが、どんなことにもまじめに取り組む人柄らしく、めきめき上達していったようだ。私が現住所に転居した後、年に一度頂く年賀状がとても楽しみだった。無論、お手本のような筆の字に出会いたかつたからだ。

話は変わつて、今年の一月に妻がケガをした。側溝に落ち、アキレス腱を切断してしまつたのだ。まず困つたことは、正月なので医者に不自由。これはどうにか乗り越えたが、難関は掃除・洗濯・炊事等の家事だ。「男子厨房に入らべからず」で育つた私は、炊事は、何もできない。反省しきりだ。

妻の診断結果は、入院三、四週間、全治十六週である。心を決めるしかない。つまり「やるしかない！」だ。幸い、妻は買い置きをしてくれていた。さらに幸いなことは、ホームページ上にレシピがいつばいあることだ。

昔の理科の授業を思い出し、計量カップ・スプーンを使つてみた。どうか・・・最近では自分で旨いと思えるものも作れるようになってきた。でもまだまだだ・・・

大家さんは数年の努力で皆から認められる領域になつた。私の挑戦はまだ入口。これからである。先日、やつと十六週を迎えた。



慈光寺

新一万円紙幣発行に思う

熊谷西 岡田 菊江

五年後に発行されるといふ一万円紙幣の肖像に洪沢栄一が選ばれた。日本資本主義の父洪沢栄一は「論語と算盤」の中で、「正しい道徳の富でなければその富を永続することは出来ない」と述べている。銘記すべき言葉である。

私は洪沢栄一の孫嫁の多歌子氏とご縁があった。ご自宅へ電話をさせていただくこともしばしばであった。ある時は軽井沢の別荘へ招待されたこともあった。そんな折々に伺ったことである。

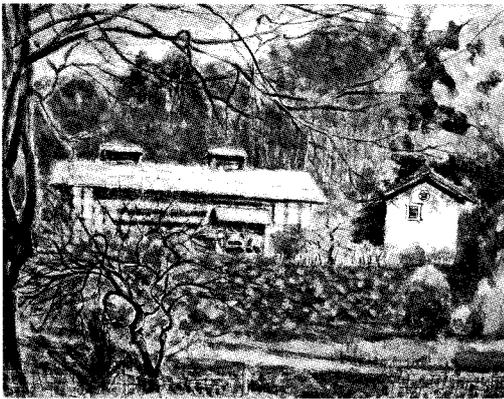
①某ホテルにある栄一の銅像に雑巾が干してあったので、引き取るうとしたが駄目だった。②木曜日は休日と決めているのでNHKでも会わない。③洪沢国際学園には講師として、ウィッキーさんと飯田美雪さんに来てもらうつもりだ。④共産圏以外の国は殆ど訪れている。等々、いろいろなお話を拝聴した。

また、洪沢国際学園開園の折には「招待者名簿の中にあなたの名前が無かったので入れさせたから」と言われた。美しく優しいお顔が彷彿とする。

ある日、突然信じられない事が起った。多歌子氏は軽井沢の別荘から東京のご自宅へ秘書氏の運転で帰られる間、越前自動車道で事故死されたのである。当分の間、信ずることは出来なかった。多歌子氏からいただいた沢山の思い出は宝物として、今も私の心の中に生き続けている。

―天国の多歌子先生へ―
すばらしいニュースです
五年後、栄一御祖父様が一万円紙幣の肖像になられるそうです。心からお慶び申し上げます。心で報告させていただきます。

在りし日の多歌子氏を偲びつゝ。



風布民家

地域の皆様に感謝Ⅱ

熊谷南 宇山 正典

定年退職後、二年が経ちました。街や駅等でお会いする先輩・同僚・後輩から「今、何しているの、元気？」と定番のように声をかけられます。「安心してください、楽しく生活しています。」と応えることが多々あります。二年前にこの会報で、地域について書かせて頂いたので、その続編を記載すれば、私の現状をご理解頂けると考え、このタイトルを進めていきます。皆様には、役に立たないことばかりですがご容赦ください。

まず、地域の人との関わりについて。携帯電話登録数が学校関係者グループに並ぶ勢いで増え続けています。それぐらい新しい生活環境の中に浸透しています。その内訳は、趣味や飲み会等の楽しい仲間、地域の仕事関係者です。地域での役割は、地区の三役を始め、神社の総代、寺院の役員、地域の祭りの会長など、退職を待っていたかの様に任せられています。しかし、少しずつではあります。地域に恩返しができホッと

次に、少し大きめの家庭菜園が軌道に乗り、楽しみに変わってきています。これも、多くの地域の人との関わりがあつてこそ実現しています。

素人が行う家庭菜園ではありませんが、三人の師匠に学んでいます。それは、①土作りのプロ②農具を上手く扱うプロ③作物の特色と害虫駆除に精通しているプロ。そして、新たに、刃物等研ぎのプロを探しながら愛犬と共に散歩しています。

最後に、私の現状は、十数年前に新設された「総合的な学習の時間」を自ら体験し、新たな自分を楽しんでいます。日焼けし真っ黒です。

夫婦で取り組んでいる

熊谷北 草野 壽春

退職の数年前、妻から「退職をしたら旅行に行きましょう。」と提案を受けていた。そのころは、「ただ単に旅行へ行くこと。」としか捉えていなかった。しかし、折角旅行するのだから、「何か目的をもった方がいいだろう。」というところで、次の三つを考えた。

一つ目、寺社仏閣の御朱印を受取る。二つ目、観光列車に乗り、美味しいものをいただく。三

つ目、四十七都道府県すべてを訪れる。

一つ目については、参拝したい寺社仏閣を中心に旅行計画を立てたり、訪れた地域にある寺社仏閣を参拝している。先日参拝した身延山久遠寺の石段は二八七段、一〇四mの高低差でそそり立つようであった。朱印帳は神社用と仏閣用に分けて頂いている。朱印帳も十六冊となった。

二つ目については、現職中、夏休みにしなの鉄道の観光列車「ろくもん」に乗車し、美味しい食事と各駅でのおもてなしに感動した。その後は西武鉄道の「五十二席の至福」やJR九州の「或る列車」、遠くはメルボルンの「トラム・レストラン」などに乗り、楽しんでる。

三つ目については、結婚後、夫婦や家族で訪れた都道府県は二十八都道府県で、あと十九府県でコンプリートする。

そして最近強く実感することが健康と体力である。当然のことであるが、普通に生活する上でも一番重要なことである。そのために規則正しい生活と適度な運動を心がけている。六階の職場までは階段を使ったり、自宅ではエアロバイクを漕いだりと、少しでも長く

夫婦で旅行を楽しむことを目指し、夫婦で取り組んでいる。

一灯を継ぐ

深谷北 大橋 洋子

《愚直なる歩みとおもふ櫛に

一歩一歩と雪踏み来れば》

こんな歌を遺し、昨年の四月、兄はあの世へと旅立った。折しも

灌仏会が終わった翌日であった。

例年ならば、この山村に桜が咲

くのは、四月の中旬から下旬頃で

ある。ところが昨年は山寺の周り

にあるおよそ百本あまりの桜が、

すでに満開であった。そのほとん

どは、兄が自分で植え、共に育つ

てきた桜であった。出棺のとき

に、にわかには強い風が吹き、花吹

雪が柩の上を被ってくれた。まる

で別れを惜しむかのようにであっ

た。

小祥忌も済み、今年もまた春

がめぐってきた。兄の遺品の整理

をしていたら、古い木箱の中か

ら、たくさんの手紙の束が出てき

た。

古くは、祖父が修業中の息子に

宛てたもので、全て筆書きのもの

であった。若くして妻を亡くし、

息子を七才にして得度させねばな

らなかつた苦慮が、あちこちに滲み出ていた。そして、もう一束は戦地からの父の手紙であった。

昭和十八年十一月。老いた祖父、妻子を残し父は出征していった。

五十通にも及ぶ手紙は、昭和二十年四月で終わっていた。

寺の入口に樹齢数百年ともいわれる老樹の桜があるが、父は生きて再びこの桜を仰ぐことはできな

かった。兄もまた、七才にして僧侶としての道を歩むことになっ

た。

《桜咲く春いくたびぞ樹下の道

征きてかへらぬ父の憶ほゆ》

兄の遺していった数々の手紙や

歌の中に、父から受け継いだ法灯

への想いを詠んだものもあった。

《戦死せる父より継ぎし山寺の

灯火ひとつ地吹雪の果て》

「令和」を迎えた今これらのもの

を読み返してみると、一貧寺の激

動とも言える昭和史が見えた。

農業と私

深谷南 大澤 誠一

S氏宅の蔵にある「高等小學校讀本の第一科『農業』」では、まず、「農業はあらゆる職業の中で、

最も身體を健康にする。」次に、「農業は、又よく精神を健全にする。」さらに、「農業は最もよく家庭の和樂を與える。」そして、「農業は最も趣味に富んだ職業である。」

退職校長の中にも、農業に励む方が多数おられる。例えば、キャベツを五百個作って出荷することを目標としている方。夫婦でネギ作りをしている方。家庭菜園で作った野菜をご近所などへ差し上げている方。まさに、野菜作りを通して、己を磨き、人間関係作りを進めている素晴らしい実践者である。

私の家は、代々農家であった。夏の米と冬の小麦作りの二毛作。春から晩々秋にかけては複数回の養蚕。どの家でも朝早くから耕耘機の音がしており、子ども達は手伝いをさせられた。私の家では父がいなかったため、小四の頃から朝、耕耘機で田んぼをかいてから学校へ行った。また、養蚕のため桑切も行った。「何で我家ばかり」と不満に思いつつも、母親の汗を見れば不満は言えない。この農業で成長させてもらったのだ。苦しい農業経験から、将来は農業以外の仕事に就きたいと思った。そして、退職となった今、私は卜

ラクターでうなった畑に、妻と二人で野菜やブルーベリーの苗を植え、育てている。決して上手とは言えないが、収穫時には喜びや満足感を味わっている。それらを材料に料理し、食することは、至福のひとつときである。キャベツと回鍋肉。トマトやナスでスパゲティ。里芋で芋煮会。家族や親戚、知人達とで分かち合っている。

ワールドカップ 日本開催目前！ ラグビーが持つ教育的価値

深谷中 松島 伸一

グローバル社会の進展の中、人種・国籍・宗教等差別が現存し争いが絶えない地球人である。

ラグビーは、日本代表をはじめ、一定の規則の下「人種・国籍等」の規制はない。これは、ラグビーの母国英国の植民地政策の影響で一八九〇年代より多様性が担保され、オリンピック・サッカーワールドカップに次ぐ、世界三大スポーツとして親しまれる。

私は、人を育てる職業に関わった一人として、ラグビーの持つ教育的価値を伝承し続けたい。

私は、現在、一般社団法人深谷スポーツクラブを経営している。ラグビー精神 [One for All, All for One. NO SIDE] を次のように理解し、経営理念としている。

一、夢を持つとう。

何のために、ラグビーをしているのですか。ラグビーの良さを身に付け、夢を実現するため。

一、「認め合う・支え合う・磨き合う」仲間となる。

「認め合う」とは、人は、皆違う。

背の高い人もいれば低い人もいる、駆け足の速い人もいれば遅い人もいる等、違いを認める。「支え合う」とは、皆、得手不得手がある。補い支え合い、目標や夢の実現に努める。「磨き合う」とは、一人一人の力量を高め、全体の力量を高める。

一、物を大切にする。

物を大切にすることは、人を大切にすること。

一、ルールを守ろう。

してはいけないことは、しない。一、NO SIDE の精神を実践する。

勝ち負けを離れてお互いのスポーツマンシップを讃え合う。

最後に、顔や肌の色、言葉が

違っても日本を愛し、身体を張る日本代表！ベスト8入りを祈念する。

笑う山

寄居 新井 研吾

「山が笑っている。」

いつのことだったろうか。ずい分昔のことだが、誰かがこんなことを言っていた。

それは、長い冬の終わりを感ずるころのこと。それまでの硬い広葉樹の芽は徐々に膨らんでいく。膨らむごとにわずかに増す赤みが、遠目からは木々全体を淡いピンク色に変える。これが、山全体で同時に起こるものだから、それまでの山水画の世界に、わずかな春色を加える。

間もなく、若葉というにはあまりにも柔らかすぎる幼葉（こんな言葉があるのかは知らないけれど、）が、膨らんだ芽の殻からはじけ出る。この幼葉は、みずみずしい若葉色。若葉色の輝きは、次々と山全体へと急速に広がっていく。ほんの少し前まで押し黙っていた山は、幼葉の輝きを歌として、一気に、春を歌い出す。

こんな山の表情の劇的变化を、「山が笑っている。」と誰かが言ったのだ。

しかし、山の笑う姿は、長く続かない。その寿命は約一週間。輝く幼葉の若葉色はわずかな間に深

みを増し、鮮やかな緑の葉に成長していく。そうして、山は夏の山へと落ち着いていく。

退職してから三年。最近になって、夢中に過ごした三年前までは見えていたけど見ていなかったことに気づくことがある。そればかりか、今になって実感を覚えるころもあるのだ。これは、歳を重ねたからなのか。それとも責任から解放されたゆとりがそうさせたのだろうか。

その理由はわからない。わからないが、私は、平成最後の春、寄居の山々が笑っていたのを見た。



キクイモの花



一人旅を満喫

熊谷東 遠藤 雅子

退職して二ヶ月後、思いがけず広島へ一人旅に出かけることになりました。原爆ドーム、宮島、呉等。平日に自分の興味ある場所に時間をかけ、地元の人たちと触れ合いながら、気ままに巡る旅にすっかり魅了され、退職後の自由を実感した三日間でした。

これからは、退職校長会の先輩方をお手本に、自分らしく充実した日々を送りたいと思っています。

よろしくお願ひします

熊谷東 清水 登

在職中には皆様方よりたくさんのご指導をいただきました。誠にありがとうございました。さうございました。

校長としては川口市及び熊谷市で計八年間、お世話になりました。それぞれの学校で「好きなこと」をやらせていただきましたが、その指針となったのはやはり諸先輩の実践でした。感謝申し上げます。これからもよろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひいたします

熊谷東 大島 徹

3月に熊谷市立大里中学校を退職しました。4月からは北部教育事務所の生徒指導指導員として勤務しております。北部教育事務所管内の生徒指導の充実に少しでもお役に立てるように努力して参りたいと思います。

一方で、勤務も週4日となり自分の時間も多く持てるようになりました。今後は余暇も含めていろいろなことを楽しんでいきたいと思ひます。様々な場面で皆様にお世話になります。今後ともよろしくお願ひいたします。

強く 正しく 睦まじく

熊谷中央 飯田 明彦

今年度より退職校長会に入会させていただきました。よろしくお願ひいたします。現在、再任用校長として引き続き学校経営に携わらせていただいております。

校訓「強く 正しく 睦まじく」は、本校の歴史の中で脈々と受け継がれてきた石原小教育の原点です。今年さらには新たな伝統を積み重ねるべく積極果敢に取り組んでいこうと思ひつてます。

新たな気持ちで

熊谷西 稲葉 俊昌

昨年度、別府中学校で教職生活が一区切りとなりました。三十八年間の振り返ると、様々なことがありましたが、諸先輩の皆様のご指導のおかげで、充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございます。縁あって、新しい学校での勤務をいただきました。重責ですが、新たな気持ちでがんばります。引き続きご指導の程よろしくお願ひいたします。

じぶしの木に癒されて

熊谷西 向井 邦明

自宅の庭に家を建てた時に植えたこぶしの木があります。新年度を迎える初春、蕾が膨らみ白い可憐な花を咲かせ、やがて芽吹き、新緑の季節となります。植物の生命力を感じる私の一番好きな季節です。夏には生い茂った葉が木陰をつくり、秋には紅葉を迎え、冬にははしっこりとした幹から春に向かう力強さを感じます。四季の移ろいを楽しみ癒される日々です。

原点に戻って

熊谷北 堀越 尊夫

小学校一筋三十八年間、多くの方々に支えていただきながら楽しく充実した教職生活を送ることができました。ありがとうございました。

現在、再任用教員として、三名の初任者の指導を担当させていただいております。初任者教員と共にほば終日子供たちと一緒に過ごし、自分が新任教員だった頃を思い出しながら幸せな日々です。

子育ての積み重ね

熊谷北 青木 絹子

週三日の初任者指導。自由な時間を戴き、改めて気付かされたことがあります。我が家の庭にある木々の新緑、つっじや紫陽花の鮮やかな色あい等、庭の風情に感動。

一歳半の孫と行く子育て支援センターや児童館にも感動。現在勤務している小学校も含め、きめ細かい温かな環境に触れ、幼保小から中学への橋渡しに感動です。愛情の積み重ねを改めて感じました。

よろしくお願いします

熊谷南 栗原 伸行

この度、退職校長会に入会させていただきました。熊谷市立江南北小学校長として、無事定年を迎えることができましたのも、皆様の様々なご支援によるものと改めて感謝申し上げます。五月より熊谷市教育相談指導員として新たな道を歩み始めましたが、今後とも諸先輩方のご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。よろしく申し上げます。

教師一筋

熊谷北 坂上 正明

五つの中学校と一つの小学校で教鞭を執らせていただいた。退職を知った各学校の教え子達が、それぞれに祝会を開いてくれた。大とりは初めて送り出した中で、今は50才。県内外から集まってくれてつい三次会まで(笑)。教え子達の年齢幅の広さが、そのまま私の思い出の数と重なっている。「教師一筋」で良かった。次は新入会員です。よろしくお願ひします!!

ラウンドシステムの考え方を
取り入れたかまい合う授業、
向かい合う授業実践

熊谷北 長島 正雄

私は、熊谷市内の小学校で外国語活動の指導をしております。来年度の教科化に向けて、また中学校で実施しているラウンドシステムへの円滑な接続をミッションに担任の先生方やALTと連携して、熊谷教育の目指すラウンドシステムの考え方を取り入れた子どもと先生、子ども同士がかまい合う、向かい合う授業実践に日々楽しく取り組んでおります。

退職を迎えて

深谷中 平井 慶益

退職という大きな節目を迎え、今までの人生とこれからの人生について考えています。長い教員生活でたくさんの思い出がありますが、何よりも多くの人と出会い、支えられ、無事教員生活が終えられたことに心から感謝しております。

今はマイペースで趣味の読書、旅行、ゴルフ、農作業をしています。これからは少しでも社会貢献ができればと考えております。

新たな生活習慣で健康づくり

深谷中 高橋 明美

生活習慣と健康との関係は、知っているつもりではいましたが、退職と同時に身をもって痛感することとなりました。

今後は、自分の身体を労り、無理のない、ゆつくりしたペースの生活習慣を築き、心身の調和を図りながら、健康を取り戻していきたいと思っています。諸先輩方の魅力的な生き方を参考に、私もそうありたいと考えています。

ゆったりした時間が

流れています

深谷中 渋谷 肇彦

先輩の方々、同僚等に支えられ、三年八年の教職生活を無事終えることができました。これからは「退職校長一年生」として、お世話になります。宜しくお願ひします。

現職の時は、子どものこと、学校のこと、保護者や地域のこと等を常に考えていて充実していましたが、反面、何かに追われているような日々でした。今はそれもなくて、毎日がゆったりしています。

「令和」と第二の人生

の始まり

深谷北 矢島 久

時の流れは「時速年令である」という先輩の言葉を実感している。時速一〇キロの昭和より時速四〇キロの平成のなんと早かったことか。そうすると令和の時代は……。否、考えないことにしよう。スピードアップは趣味のランニングだけであってほしい。今後の人生を健康で充実したものとするために、さらなる修養に努めたいと思う。

感謝を胸に、

新たなスタート

深谷南 松本 浩

学校現場で退職を迎えたかったが、かなわぬ夢となってしまう。県行政に在職中は、校長先生方に様々なお願いを聞いていただき、職務を遂行できたことに、深く感謝をする次第です。紙面をお借りして、お礼を申しあげます。

今は、大学で、これから教員を目指す学生の指導に関わる日々です。若者と過ごしパワーをもらい、第二の人生をスタートしました。

よろしくお願ひ申し上げます

寄居 鴻野 年伸

この度、新入会員として仲間入りをさせていただきました。

時代は、平成から令和の御代となり、この歴史と伝統ある本会の一員として、益々複雑で多くの課題や困難を抱えるこれからの教育に少しでも役に立てるように諸先輩方の御指導・御鞭撻をいただきながら、更に「自己研鑽」に励みたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

地区だより

渋沢栄一に学ぶ

深谷北 河田 重三

新一万円紙幣に渋沢栄一の肖像と、東京駅丸の内駅舎が採用されることになりました。丸の内駅舎の躯体には八百三十三万個の煉瓦が使用されており、渋沢栄一が設立に関わった日本煉瓦製造上敷免工場製がその多くを占めています。

近代日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一には尾崎行雄の人物評が残されています。

一、頭が鋭い。
一、勇気があった。度胸の据わった人。

一、親切に物を見ると同時に、勇断可決、果断決行、そく謀りよく断ずる。

一、事業の遂行力が非常にあった。……と。

物心がついた栄一に父市郎右衛門が漢文の素読を教え、書を大叔父仁山に習います。七歳から従兄弟の尾高惇忠の塾に通って論語をはじめ四書五経などを読み進め、書物から英

雄豪傑にも心を馳せます。また、尾高家には剣術道場があり、大川平兵衛に就いて神道無念流の出稽古に汗を流しました。一方、父の留守に藍葉の買付けを大人顔負けに行う少年は、岡部陣屋での御用金言い渡しに即答せずに帰宅する青年になります。さらに、藍玉や蚕種の商いから信用を基にした商習慣を学ぶ傍ら、体制に抗う熱気も蓄えていきます。母えい、妻千代の憂いを胸にしまい父に勘当を許されて京に逃れ、一橋家家臣、幕臣、フランス訪問の随員、静岡での商法会所設立、明治政府仕官、民へと転じていったその時々の決断には、郷里にて目の前の課題に日々全力で打ち込んだ中で培った利他の志と、広く幸を願う思いやりが見えてきます。



若き日の 渋沢栄一像

第十五回 春季ゴルフ大会結果

令和元年六月六日(木)夏の差しが降り注ぐ中、十九名の参加者の協力を得て第十五回春季ゴルフ大会が開催されました。

開会式では、新井支部長より『三つの宝』を大切にプレーするよう激励を受け、全員が『三つの宝』と風と自分自身を相手に一杯のプレーを繰り広げました。大会の結果は、次のとおりです。

優勝 林 健次

準優勝 中村 充志

第三位 小久保良一

ベストグロス 林 健次

(敬称略)



ユリとひまわり



文 芸

俳句

母逝きぬ

熊谷西 高橋 伸子

若葉中見舞いし母の掌を包む

子等を見て笑む母五月の風優し

すいかずら匂ふ朝あしたや母逝きぬ

旅支度整えし部屋百合香る

うの花の雨静まりて通夜迎ふ

つれづれに

熊谷北 廣瀬 正美

からつ風隠れる尾長首を出し

山笑う孫の齒の白さかな

先を行く朧月夜の帰り道

温かさ権現さまの山桜

山桜けむる御山の吉野径

川柳

老いの虚言

熊谷中央 角田 茂男

定年後引き算だけがうまくなり

古希超えて欲が出ました傘寿まで

飲み会が安否確認月に二度

鏡見てあ然がく然後ずさり

無理しない枯淡の風姿奥ゆかし

短歌

榛の木の花

深谷中 真下 義明

我が里の地名「榛沢」榛の木の花
ゆらす風にわれも吹かれる

榛の木の花ゆれている二すじの川
会うところきらめきを増す

ようやくに出版なりし我が歌集
『榛の木の花』表紙見つめる

我が郷は

寄居 町田たか子

春まだき鉢形城趾のにぎはひは
氏邦桜とかたくりの群れ

濃き淡き緑の山の遠近に

山桜咲き春はかけ足

麦秋もかつての季語となりたるか

休耕田の中にそを見る

詩

実りの秋をまえに

熊谷南 早津 孝

一面にかがやく みどりの麦

五月の風に

その鋭い穂先が 白く波うつ

風は また去り 一面のみどりに

こうして やがてくる麦の秋

その実りは 命あるものの糧に

実りの秋をまえに 私は想う

冬の凍てつく大地に芽ばえた

小さな小さな青い芽のことを

もうすぐ麦の秋 実りの秋

思わず 口ずさむ私のメロデー

絵画説明

本47号を飾る4枚の絵画は、絵画同好会に所属されている深谷班の風間勲先生の作品です。風景画も生物画も先生のお人柄を思わせるていねいでやさしに溢れた力作です。

編集後記

「おへさと」第47号をお届けします。本年度は組織が改編され、広報部員も大幅に入れ替わり、不安なスタートとなりましたが、新井支部長の好リードにより、編集作業も順調に進めることができました。本年度は17名の新入会員がありました。令和時代の新しい風に期待しています。

年度	弘子 明守 明裕 三章 一昭
元部員	眞雅 一重 誠寛
令和	田藤 林井 口島 田本 澤岡
広報	内遠 小新 原福 河松 大室

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第四十七号)

発行 令和元年八月一日

発行者 支部長 新井 俊一

印刷所 光陽社印刷所

熊谷市本町一丁目一〇

(〇四八)五二一〇七五七